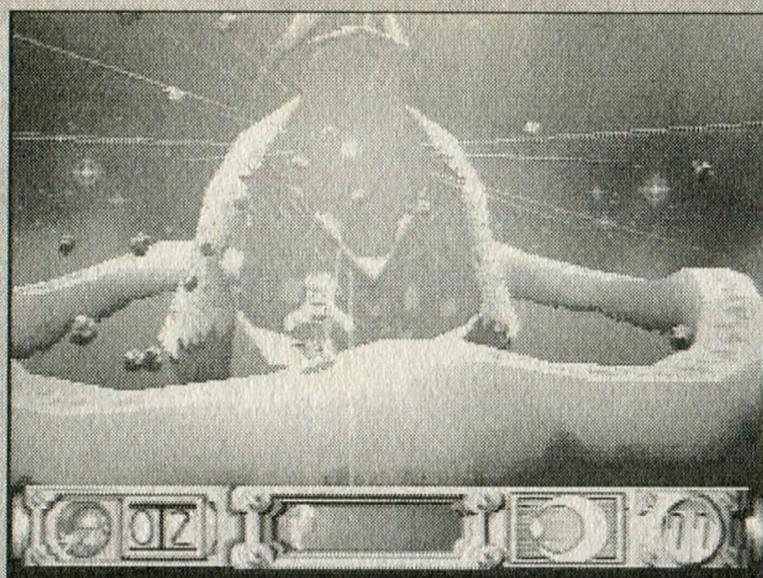


ナ イ ス ゲ ー ム  
イ ン プ レ ッ シ ョ ン



# 風のクロノア

door to phantomile

ヒロポン Presents

心の底から  
泣いた…。

よく、半分冗談で「これって泣けるよねー」なんて言うけれど、本当に泣いたゲームってあったっけなあ、とふと考えてしまった。心から「良かった」と思うストーリーやシーンはいくらでもあるし、心がじん…としたのだったくさんある。けれど、本当に涙を流して泣いたようなゲームとなると、何があっただろうか？

そうしてたった1つだけ思っていたのが、この『風のクロノア』（PS）のエンディングだった。絵本っぽいファンタスティックな世界観の中、気持ちのよいアクションが繰り広げられるこの作品は、その見返しが待っていたのだ（編集部注…本作のエンディングの話になりますので、未クリアの

## ファンタスティックな世界に 隠された、裏切りと悔恨の物語

方はご注意ください。

主人公クロノアと、親友のヒューポー。彼ら二人は仲良く野原を駆け巡る日々を過ごしていたが、ある日突然、この世界にある悪者の魔の手が忍び寄る。クロノアはおじいちゃんの助言もあって、その悪者と戦うために立つ…というのが序盤のストーリーだ。ここまではまったくもってお約束で、どこも変わったところはない。ところが、このほのぼのとした「おはなし」が、ゲームの進行と共に少しずつ変貌していくのだ。

まず、おじいちゃんが悪者の手によって殺されてしまう。そう、「殺されて」しまうのだ。こんな低年齢層を意識したような世界観のゲームでは、わざわざ「死」を持ちださなくても、「おじいちゃんが悪者に襲われて怪我をしました」で十分のはず。なのに、どうして？

そしてようやく、皆と力を合わせて「ファントマイル」というこの世界の夢を食い尽くしていく悪者を倒したクロノアとヒューポー。枯れかけた野原や花々が次第に蘇っていくのを見て、クロノアは「これで元どおりだ」と思った。けれどそこで、ヒューポーが衝撃の真実をクロノアに告げる。

「君は本当はこの世界の住人じゃない」  
「あの夢を食らう悪者を倒せるのは、この世



## Impression

界とは異なる夢を持つ者だけだった」

「だから僕は、おじいちゃんに謀って、異世界から君を呼んだんだ」

「君の記憶は、全部作られたもの」

「だから君は元の世界に戻らなくちゃいけない」

クロノアは、必死に否定する。裏切られた気持ちでいっぱい、でも信じたくなって、声の限りに「嘘だ！ 嘘だ！ 嘘だ！」と叫ぶ。異世界からはじき出されようとするクロノアは、空に吸い込まれてしまいそうになる。その風に逆らって、「ずっと一緒だって言ったじゃないか！」とクロノアは身を振って叫んで、そしてついにヒューポーも耐えきれずにクロノアに駆け寄る。ヒューポーだって、クロノアと一緒に遊んだ日々まで「嘘」だったわけじゃないのだ。たとえ始まりが何であっても、クロノアがいつか元の世界に戻らないといけないとわかっていても、嘘から始まったも本当の友情は築けるんだ…。

…というこれが、ナムコの当時最高峰のCG技術で描かれるんだからものスゴイ。技術的なことなんてちっとも詳しくないけれど、とにかくその辺の「キレイだ」と言われるムービーの比じゃなかった。風をはらむ布の重さ、質感、物が落ちる衝撃、ぶつかる痛さ、引つ張る強さ。そういったものが感じられて、

初めてその絵には命が吹き込まれると思っ  
ている。そして『クロノア』にはそれがあつた  
のだ。

さて。その後のヒューポーというのを考え  
たとき、ようやく前述の「なぜおじいちゃん  
が死んでしまったのか」が効いてくるのに気  
づく。クロノアをこの世界に呼んだのはおじ  
いちゃんとヒューポー。そしてヒューポーは  
ずっとクロノアを裏切り続けていたという負  
い目がある。クロノアのこと好きだからこ  
そ、彼を利用してすることに嫌気が差したは  
ずだと思ふ。でも今。フロントマイルが平和  
になって、ヒューポーやおじいちゃんの思惑  
どおりにすべてが解決した今。その平和のた



すべてを知ってから見ると、ここでの「だって小さい頃からの友達じゃないか」というクロノアの台詞も泣かせる。

めにヒューポーとおじいちゃんの払った犠  
牲を、誰もわかってくれない。ヒューポーは、  
親友を裏切った悲しみも苦しさも、一人で抱  
えていかなければならないのだ。だってそれ  
を唯一わかってくれるはずの、共犯者のおじ  
いちゃんは死んでしまったんだもの。

確かにクロノアだって苦しいかもしれない。  
現実世界に戻って、もう二度と戻れないフ  
ロントマイルと、そこで共に過ごした親友のこ  
とを思っ泣く夜もあるかもしれないけれど、  
「傷つけられた」クロノアはいつか立ち直る  
ことができる。いつか大人になって、「あの時  
のヒューポー」のことを思いやることができ  
る。でも、ヒューポーは…？

たぶんヒューポーは、死ぬまでクロノアへ  
の罪の意識を抱えていくんだと思う。それが、  
彼の贖罪なんだろうと想像することで、また  
新たな涙が一粒。

## 編集部より

ゲーム本編の話ははずして、エンディングとその  
後の話に絞っているのですが「クロノア」の魅力  
は十分伝わってきますね。うまいです。  
P80にインプレッションの募集要項があるので、  
皆さんもぜひご応募ください。